

水俣の
奇病

伝染性のものでない

ビールス発見できず

中毒説に研究の重点を

招き中間発表会 熊大教授ら

水俣の奇病対策委員会では二十五日午後一時から県水俣保健所に尾崎熊大医学部長はじめ大反田、入鹿山、長野、喜田村、武内、西浜、徳臣、上野の各教、助教授を招き奇病発生以来現在までの研究結果の中間発表会を開いた。

この日は大反田(細菌)入

田(細菌)入

鹿山(衛生)

長野(小児科)

喜田村(公衆衛生) 徳臣

(内科)の五氏からそれぞれ担当

部門についての報告が行われたが、結論としてはなお今後の研究結果にまたねば発生の原因が何であるか断定できないが一応これまで動物実験の結果ビールスが発見されぬところからみて伝染性のも

のでないことが確認されるに至つた。

また発生地区月ノ浦部落ではネコが脅たずたまたま脅つてもてんかん症状を起して海に飛び込むとい

われており当初から奇病と取組んできた細川新日寮付病院院長もこのネコと奇病とは何らかの関連性

があるのではないかと注目してき

たが、十月下旬てんかん症状を起したネコを現地視察に赴いた伊藤

県水俣保健所長が釜戸熊大第一内科に送つたがこのネコの臨床調察

実験を行つてゐる徳臣助教授からネコの症状は明らかに奇病患者の症状とにているとの注目すべき報告が行われた。

熊大ならびに現地対策委員会では奇病の原因が伝染性のものでないことが明らかになつた現在、研究

の主力を中毒説に置き解明に全力をあげるようになったがこの結果

新日寮工場の要品処理によつて生ずる排泄物が奇病と何らかの關係を

持つのではないかとこの点に研究

の焦点をしばるようになった。